

高松市公の施設指定管理者導入施設に対する評価

評価対象期間：平成28年4月1日～平成29年3月31日

施設名	高松市道の駅源平の里むれ		
-----	--------------	--	--

指定管理者	株式会社 四国にぎわいネットワーク	施設所管課等	観光交流課
指定期間	平成24年4月1日～平成29年3月31日(5年間)	公募・非公募の別	公募
所在地	香川県高松市朝日新町32番10号		
施設の概要	【施設】 木造平屋 【職員の状況】 正社員7名 パート従業員25名 【開館時間】 3月～10月：9時～18時 11月～2月：9時～17時	業務の概要	施設の維持管理・運営業務 ・物産棟(物販販売、産直市、食堂) ・無料休憩所 ・情報センター ・駐車場

	項目名	平成28年度	平成27年度	項目名	平成28年度	平成27年度
利用状況等	利用者数(レジ通過者数)	248,506 人	251,899 人			
	アンケート回収数	42	42			
収支状況等	指定管理料	0 千円	0 千円	支出実績(総額)	(税込)99,138 千円	(税抜)96530 千円
	収入実績(売上総利益)	(税込)98,656 千円	(税抜)94,355 千円		千円	千円
		千円	千円		千円	千円

評価基準	評価項目		指定管理者自己評価コメント	所管課等評価
	①	②		
1 基本事項	①法令上必要な知識等、安全対策、危機管理		高松市道の駅源平の里むれ条例等関係法令に基づき、施設の維持管理・運営を行った。食品衛生管理・防犯指導・防災研修・避難訓練を定期的に行うことで、従業員の意識向上を図った。環境に配慮した取組みとしては、節電・節水意識の向上、ごみの分別の徹底、エコ商品の活用を行っている。	A
	②個人情報の保護、情報公開、環境への配慮			
2 住民の平等な利用確保	①管理運営、施設事業との関連性		高松市が示す管理基準についてはその都度ご指導をいただきながら、その遂行に努めた。毎月1回、本社にて行う会議に管理職が出席し、管理運営に関する情報の共有を図った。会議での決定事項は、即現場にフィードバックし、運営に生かした。	A
	②平等な利用の確保			
3 施設の効用の最大限の発揮	①利用促進対策		施設の強みを最大に発揮し、事業の公共性は十分果たした。オリジナル商品の開発や、梨祭り・収穫祭などのイベント、スタッフブログの記事等を通じ、継続的な情報発信に取り組んだ。中四国・関西・関東地区の旅行会社等への営業展開も引き続き精力的に行い、香川県・高松市のPRを行った。また新聞・テレビ・情報誌等に取り上げていただけたことにより多くの方々への情報発信ができた。相談・クレームに対しては、全て真摯に対応した。	A
	②広報・PR対策			
	③企画事業・自主事業			
	④市・関係団体・地域等との連携			
	⑤サービス向上の取組			
	⑥相談・苦情への対応			
4 管理を安定して行うための人員及び財政基盤の確保	①職員確保計画等		労働力の確保はより一層厳しさを増し、新規採用の困難さが運営上の大きな課題となっている。パートの高齢化が深刻ではあるが、各自が持つスキルを最大限発揮して、活躍している。調理技術の習得・接客接遇のスキルアップ・商品知識の共有等、従業員教育には常に取り組んでいる。また、防火管理者講習・酒類販売者講習・食品衛生管理者講習等を順次社員が受講し、業務に必要な知識習得に努めた。損害保険は施設規模に合わせた内容に継続して加入している。	B
	②教育・研修			
	③就業規則等の遵守			
	④施設運営の健全性の確保			
	⑤損害保険等			
	⑥収支計画と執行管理			
5 管理に係る経費の縮減	①収入の確保・適正な人件費		来場者数が昨年度を下回り、また従業員の労働環境整備・待遇改善に伴う人件費の上昇等、厳しい状況ではあったが税引前収支は黒字で終わることができた。水道光熱費・消耗品費等の縮減については、地道な作業ではあるが従業員ひとりひとりに意識付けを行っている。会計制度は諸基準に基づき適正に実施している。	B
	②運営経費の節減対策・コミュニティビジネスの視点			
	③経営の効率化			
	④合理的な会計制度			

総合評価コメント	総合評価
高松市道の駅源平の里むれ条例や各種のマニュアルを遵守し、安全管理など、施設管理は適切に行われている。また、個人情報保護については、「高松市個人情報保護条例」に基づいて守秘義務の徹底を図っているほか、「高松市環境方針」に基づき、廃棄物の減量と分別を徹底するなど、環境配慮活動と経費削減への意識啓発を図っている。各種研修にも積極的に参加しており、一人一人が高い意識を持って管理運営に取り組んでいる。 利用者ニーズの把握も積極的に行い、開館時間等の柔軟な運用や自主企画事業の実施など、地域と一体となった運営が行われている。また、オリジナル商品・イベントなどをメディア・ホームページで情報発信し全国的にPRするなど、集客に努めたことは評価できる。しかしながら、施設利用者数は前年度を下回っているため、今後も継続して、利用者ニーズの把握を積極的に行い、新商品の開発を行う等の工夫した施設運営に取り組み、利用客の新規開拓やサービス向上に努力を重ねていただきたい。 また、管理運営の効率化に関しては、支出が収入を上回る結果となっており、健全な収支状況となるよう、より一層、事業収入の増加及び経費削減に向けて対策を講じてもらいたい。	B